

## 秋川アコーディオンサークル

# 「師走の ちょっとひといき アコーディオンコンサート」

行ってきました！！

報告者：石橋友子（音楽センター三多摩教室）

2022年 12月18日（日）14時開演。自然がいっぱいで畑に囲まれた「あきる野市中央公民館」が会場です。何しろ秋川サークルのコンサートへ来るのは10年以上ぶりでしたから、友達を誘って、わくわくしながら行ってきました。（写真：石橋友子）

### 【教えあい学びあいながら、地域活動】

ちょっと説明を加えますと、秋川アコーディオンサークルは、以前、「音楽センター 秋川教室」として、音楽センターの一教室で、木下尊規先生が講師をしていらっしゃいました。木下先生が定年でお辞めになってからは、音楽センターを離れ、アコーディオンサークルとして活動してきました。木下尊規先生がいらしたときから、秋川教室の技術担当をしていた丸山さんが中心となり、教えあい学びあいながら、週一回3時間ほど、集まって練習しています。ディーサービスで歌の伴奏や、地域の催し物などでも演奏活動をしています。

### 【 コロナ禍から生まれた「師走のちょっとひといき アコーディオンコンサート」 】

コロナ禍で、ディーサービスでの歌の伴奏や、地域の催し物活動が、ぱったり途絶えてしまいました。そこで「観客が来ても来なくても、日ごろの練習の成果を地域の人に聞いてもらおう。」ということで、2020年12月に「第一回 師走の ちょっとひといきコンサート」を始め、2021年に第二回、2022年に第三回ということです。地域の人達に来てもらうことがメインで、公民館にチラシを置くだけで、外部宣伝はしないということでしたので、私もコンサートのことは、知りませんでした。サークルメンバーの友人からひよんなこと聞いて、素敵なコンサートを聴くことが出来ました。

さあ、コンサートへ レッツ ゴー ！

【初めから終わりまで観客と一緒に】 な、な、なんと！演奏者の出入り無し！！



この端から順に、ソロを弾いていきます。

オープニングは、全員合奏で、「高原列車は行く」「小さな喫茶店」「シャル・ウィ・ダンス」の三曲。とても軽快で、指揮者がいなくても、演奏者全員の息もぴったりで、楽しくウキウキ気分になりました。演奏している皆さんが楽しく演奏していると、聴いているこちらにも楽しくなります。オープニングは緊張して演奏や表情が堅いのですが、秋川の皆さんはとてもリラックスしていました。これは常日頃いろんなところで演奏をしてきているから度胸が座っているのかなと思いました。

次はソロが4曲続きます。いったん合奏の椅子を片付けて、ソロの椅子一つを出して準備をするのかなと思っていたら、なんと！皆さんその場において、端から順にソロを演奏していくというスタイルでした。

ソロのトップは「マリア・マリ」の演奏で、客席から演奏者のお友達が一緒に歌って下さいました。歌の応援でイタリアの空気が会場いっぱいに広がりました。次はフランスへ。「パリのお嬢さん」。ベテランの流れるような演奏にパリ気分を満喫。続いてのソロはなつかしい「シクラメンのかほり」を、ギターと一緒に、しっとり演奏しました。 ※コンサート終了後に「入退場を無しにしたのは、演奏者が、アコを担いでの入退場は肉体的にきついのでこのスタイルにした。」と、司会者から説明していただきました。なるほど。

### 【元気を頂いた、86歳の女性の弾き語り「釜山港へ帰れ」】



若々しく張りのある歌声、低音を聞かせた力強いアコーディオン演奏、歌もアコーディオンもプロ並みのうまさ！情感たっぷりに「釜山港へ帰れ」の弾き語りです。「すごいなあ」と感心していると、後でお年を知り、86才とのことで、これまた、たまげた！！

若い頃、かの有名な古賀政男さんのところへレッスンに通っていたと、ご本人が言ってらっしゃいましたが、それだけでなく、聴いている人の心を打つ表現ができるのは曲への理解と思い入れの深さだと感じました。私も86歳まで、いやもっと長くアコーディオンを楽しめるように努力しようと思いました。

20分の休憩後、後半は「アドロ」の弾き語りに、ギターが加わっての演奏です。「釜山港へ帰れ」の演奏者です。

「アドロ」はグラシェラ・スサーナの歌で有名な、狂おしいほどの気持ちを歌った恋の歌です。この歌はギターの伴奏が主に使われることが多いのですがアコーディオンとの相性も抜群です。歌い終わると客席から「ブラボー」の声が飛びました。



次のソロは「コンドルは飛んでいく」です。アコーディオンをはじめて、そんなに時間も経っていないのに難曲を素敵に演奏されていました。次のコンサートでは、どんな曲を聞かせて頂けるのか、楽しみです。

【演奏者が司会もやる！】 特別司会を立てずに、サークルメンバーで演奏者の人が司会をやっていました。一緒に演奏している仲間だからこそできる、演奏者の良さを引き出す温かい司会が印象的でした。



司会をやりながらの彼女の演奏曲は「アムール河の波」。演奏前の彼女のコメント、「2月にロシアのウクライナ侵攻があり、うちでアムール河を練習する時に、ちょっと音をひそめてやる気分でした。でも歌に、音楽に、アムール河に罪があるわけではなく、平和の波がうねってくれるように願いながら、平和への努力、何か自分にできることはないかなと思いながら練習をしています。」というのを聞いて、「あっ、私と同じ気持ちでロシアの曲を演奏する人がここにいる。」と勇気をもらいました。演奏者の隣の方が、アコーディオンに合わせて「アムール河の波」を歌っていらっしゃいました。いい表情で、素敵な演奏でした。

平和が、早く訪れますように。

### 【度肝を抜かれた選曲！ 「無法松の一生」】

この曲をアコーディオンで聞いたのは初めてでした。この曲がどんな曲か知らず、なんとなく演歌っぽい曲かな、というくらいでしたが、聞いてみると、演歌演奏はリズムも、あいの手も難しいと知りました。演奏者は難しいのを楽しそうに演奏していました。それもそのはず、彼はこのサークルのリーダーです。いろいろな曲をメンバーに合わせて編曲したり、演奏技術の指導をしたりと、このサークルの指導者です。ギターのリズムもなさっていました。なぜこの曲を選んだのか知りたくなりました。



最後は「カントリーロード」「水色のワルツ」「君といつまでも」の合奏が三曲。指揮が無くとも演奏者全員の心が一つになって、素晴らしい演奏でした。終了後も拍手が鳴りやまず、アンコールとなりました。アンコール曲がとても素晴らしく、感動しました。「Happy Xmas」(ジョン・レノン)です。今、ロシアの侵攻で、ウクライナの人々は私の想像できない苦しみの中にいます。この時期、この「Happy Xmas」(ジョン・レノン)は最適な選曲です。歌詞の「戦争は終わった。すべての戦いを止めましょう。」のメッセージを演奏と共に心にしっかり刻みました。

後記 ♪ こんな素敵なコンサートに、お客さんが少ないのはもったいない！！次回はもっと宣伝して、多くの人を幸せにしてください。

♪ 木下尊規先生、鶴見篤子先生にも、こんなに頑張っている秋川サークルの皆さんの姿を見て頂きたいと思いました。ご高齢で足腰が大変そうなので、何か工夫すれば来ていただけるかなと、よけいなおせっかいながら考えています。